令和４年度　第２回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議　摘録

１．日時：令和４年 10 月 21 日（金）13 時～14 時 40 分

２．開催場所：麻生区役所　第１会議室

３．出席者

（１）　委員

吉松委員長、村井委員、岡倉委員、伴委員、増田委員、岡部委員、森委員、小山委員、河村委員、佐野委員、依田委員、高橋委員

欠席　鈴木委員、吉垣委員

（２）　事務局

滝口事務局長、大塚地域みまもり支援センター副所長、島田地域支援課係長、野口児童家庭課長、宮川高齢・障害課長、後藤保護課長、泉衛生課長、高橋保育所等・地域連携担当課長、佐藤危機管理担当課長、西泉企画課課長補佐、齊藤生涯学習支援課長、藤原地域ケア推進課長、船山地域ケア推進課係長、長瀬地域ケア推進課主任、上原地域ケア推進課職員

４．次第

１　開会

事務局長挨拶、事務局説明

２　議事

（１）第６期麻生区地域福祉計画の進捗状況について

（２）「保健福祉に関する情報発信の充実」について

（３）その他

・今年度の会議スケジュールについて

３　閉会

【配布資料】

委員名簿

座席表

資料１　第６期麻生区地域福祉計画進捗状況

資料２　保健福祉に関する情報発信の充実について

参考資料１　保健福祉の相談窓口一覧

参考資料２　第２期川崎市子ども・若者の未来応援プラン（概要版）

５．公開・非公開の別　　公開

６．傍聴者　　０名

７．議事摘録

１　開会

２　議事

（１）第６期麻生区地域福祉計画の進捗状況について

資料を基に事務局より説明後、委員から意見聴取を実施。

岡倉委員　・資料のなかで、新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」と記載）について、さまざまな文言が使用されているようなので、統一した方が良い。

・また、生涯学習相談コーナーを 10 月から再開したということだが、国の方でさまざまな活動を解禁する動きがあってそうしているのかと思うが、区ではコロナの影響についてどのように考えているのか聞きたい。

事務局　・区としては、国の方針や、それに基づく県・市の方針に沿って、イベントや活動の実施について判断している。おっしゃるとおり、国もさまざまな活動を推進しており、区においてもコロナの状況を注視しながら、事業が動き出しているところ。

村井委員　・重点項目１「学生ボランティア活動の促進」については、麻生区と本学（田園調布学園大学）とで連携協定を締結し、特に１年生に対して、講義や情報提供などにより、地域活動に対する啓発を行っている。従来、学生ボランティアとして「認知症カフェ」の運営の手伝いなどを行っているところだが、最近はコロナの影響でボランティア活動が難しい状況が続いている。

・今年もコロナの感染者数が非常に増加した時期があり、学生も外出が躊躇される状況もあった。そのように一度活動を控えてしまうと。再び動き出すには力が必要になる。授業において再びＰＲをして、学生ボランティアの派遣に協力していきたい。

・また、本日は情報発信に関する議題があるが、情報収集なき情報発信は一方的なプロパガンダになってしまうので、いかに双方向ということで情報発信をデザインしていけるかというところが重要な基本概念になろうかと思う。区民ニーズと、それに応えていけるような情報提供について、話し合うことができれば良いと思う。

岡倉委員　・学生ボランティアについて、区社協の事業でスマホ講座の講師をすると聞いたが、そうした事業は入らないのか

村井委員　・区の事業実績としては記載されないようだ。

岡倉委員　・計画に対する結果としては記載されないが、ボランティア自体は、学生さんが色々なところで頑張られているようだ。

依田委員　・あさお福祉計画における実施結果としては、行政が関わる事業のみにならざるをえないようだが、区自体が実施しているものだけでなく、区全体でどのようにボランティア施策が進んでいるのかが見えた方がいいように思う。

・福祉計画は令和６年に更新となるので、難しいとは思うが、区（の姿）が見えてくるものに変えていけると、区民が自分事として捉えることができるだろう。そのような切り口に変えられたらいいと思う。

（２）「保健福祉に関する情報発信の充実」について

資料を基に事務局より説明後、３つのグループに分かれて検討を実施。

各グループより検討内容を発表後、村井委員から総括。

グループ１　・「相談窓口一覧」冊子の内容については、全区民を対象に保存版として制作されたことは、きっかけとして良いのではないかという意見が出た。ただ、保存版であれば、どこででも手に取れるよう配架してほしいという声があった。

・また、情報量や文字がとても多いため、冊子の作り方として、市民ニーズの高いカテゴリから載せていくなど、カテゴライズの確認が必要ではないかという意見や、できればニーズから情報を得ることができるように、例えばイラストなどで代表的な相談・困りごとなどを吹き出しなどで作って掲載し、読者にイメージが湧くように記載するのも良いのではないかといった意見が出た。

・また、保存版であれば、いつ時点の情報なのかわかるように、発行年を１ページ目に掲載してほしいという意見が出た。そして、情報量が多いので、冊子の使い方・活用ガイドなども添えると良いのではないかという意見や、使い勝手を良くしていくために、冊子を読んだ人の意見を受けることができるような連絡先や、「欲しい情報があったらこちらに」といった案内があっても良いのではないかという意見が出た。また、見たときに「まずは電話してみよう」という相談ができるように、最初にワンストップサービスの案内があっても良いのではないかという意見が出た。

・また、さらに詳しい情報を知りたい人や、地域で要支援の方をサポートしている人たちなどに対して、この冊子を見ながらもっと具体的に、冊子の活用方法がわかるようなミニ講演会や研修といったものを日頃から重ねていくこともできるのではないかという意見が出た。その他、冊子について事業別に作られているが、ニーズ別に作成することも考えていけるのではないかという意見が出た。

・「相談窓口一覧」冊子の届け方については、冊子を何年かに１回は全戸配布するとともに、その間はＨＰに更新も含めて掲載していく形で、全戸配布とウェブの両立が必要ではないかという意見が出た。やはり、情報を発信するだけでなく、その後の活用方法についてフォローアップすることが大切ではないかという声があった。

・プラスアルファのアイデアについては、必要とする人に情報をどのように届けたらいいのかについて、インターネット等の活用も進んでいるため、たとえば自分の収入や住所、認知症というキーワードを入力したら、自分の近くの包括支援センターや病院、認知症カフェなどの情報がすぐに出力されるようなサイトなど、色々な情報を検索できるような仕組みがあると、自分事として情報収集できるのではないかという意見が出た。

・ニーズをキャッチできる人を近所でたくさん増やしていくことと、併せて、そのような人たちが窓口の情報を使いこなせるようフォローアップできるようなプラスアルファがあると良いのではないかという意見が出た。

グループ２　・グループ１と同様の意見も多々あった。冊子自体については、シンプルで一覧化されており、次のステップへの土台として良いのではないかという意見が出ていたが、より良くするためどうしたらいいかということで意見を出しあった。

・「相談窓口一覧」冊子の内容については、対象者が誰なのか、わかりやすさなどが議論の中心となった。ただ、厳密な意見が出たわけではなく、さまざまに会話が進んだ。方向性は高齢者を意識した議論が多かった。
・その中でも、本人が読むという想定も必要だろうという話も出たが、グループ２ではどちらかというと見守る側を意識した検討となった。具体的な改善案として、相談先が事業別になっているため（求める情報に）たどりつきにくいところがある。冊子があっても、どこに連絡していいのかわからない場合があると思われるため、ワンストップサービスとして「困ったらここに連絡ください」というような記載があると良いのではないかという意見が出た。それが地域ケア推進課宛てとなるのかわからないが……。
・先ほど、イラストを掲載するという意見が出たが、グループ２でも「介護が必要になったら」など、さまざまな切り口で例を表示して誘導していくような表記がわかりやすいのではないかという意見が出た。また、議論を尽くしても最善のものがすぐにできるわけではないと思うので、（利用者から）色々な意見を頂くために、冊子のどこかに「読みやすくするための工夫をください」といったメッセージがあると良いのではないかという意見も出た。
・「相談窓口一覧」冊子の届け方については、保存版として（壁などに）掛けておけるように穴をあけておくとか、見えるようにしておくと良いのではないかという意見が出た。高齢者が冊子を受け取っても、なかなか自分事として身近に感じないことが多いと想定されるため、周りの人が声掛けを行うことで「じゃあ相談してみよう」ということに繋げられると考えられるので、家で見えるように置いておくことが大事ではないか。また、民生委員やケアマネさんなどが、この冊子を活用してサービスにつなげていくなど、高齢者にイメージが伝わるような使い方が必要だろうという意見が出た。
・全戸配布についてはとても良いが、全戸配布した上で重ねて、各団体へ協力を求めて、サロン等を実施した時に「区役所が〇月ごろに配布をはじめます」などと示して、それが届いた頃合いに、そのサロン等で改めて情報を周知していくのは有効ではないかという意見が出た。また、ＨＰで普段から情報を更新するとともに、冊子は５年くらいで改訂してはどうかという意見が出た。
・設置場所としては、病院や薬局など、気になる状態がある人が出掛けるところで、その人に手渡しするという形で配布するルートも良いのではないかという意見が出た。また、コンビニ設置も有効だろうという意見があった。
・プラスアルファのアイデアについては、若い世代が情報に接する場合、ネット検索が多いだろうということで、「麻生区」「子育て」などの言葉で検索した時に、麻生区の情報が素早くあがってくる工夫をしていく必要がある。ネット配信を意識して日常の業務を実施する必要があるという意見が出た。
・また、冊子に「保健福祉」や「地域福祉」といった言葉が使用されているが、どのように交じり合っているかわからないので、用語を統一して発信した方が良いのではないかという意見が出た。

グループ３　・「相談窓口一覧」冊子の内容については、Ｑ＆Ａが書かれていると、利用者にとってわかりやすくなるのではないかという意見が出た。また、就労している人は、平日に相談することが難しいため、（区役所開設）時間外で対応してもらえるとより良いのではないかという意見や、冊子の情報がネット上で探し辛かったという意見があった。

・他に、自分が相談する窓口がどこになるかを探すことが難しいという意見や、全戸配布していても実際に持っている人が少ないのではないかという意見が出た。また、市民活動についても窓口があるので掲載してほしいという意見や、どの相談窓口を掲載するかの選定について改めて検討いただきたいという意見が出た。

・その他、どこに相談してよいかわからない人に向けてコールセンターのようなところがあると良いという意見や、相談窓口で冊子を渡す仕組みがあると良いという意見があった。また、障害関係の行政窓口について案内がされていないので、改訂時には掲載してもらいたい。

・「相談窓口一覧」冊子の届け方については、（全戸配布していても）届いていないという声があるということで、窓口で説明したうえで渡すと良いのではないかという意見や、市政だよりと併せて配布することが有効ではないかといった意見、町会や民生委員さんから渡してもらってはどうか、あるいは転入時に渡すのはどうか、といった意見が出た。

・また今後に向けて、現在は冊子に５つのカテゴリの窓口が掲載されているが、あえてカテゴリごとに分冊しても良いのではないかという意見もあった。

総括　・各グループの発表を横断的に確認すると、利用者に寄り添った形での仕組みにしてほしいという意見が出ていた。つまり、現在の冊子は事業別・拠点別に掲載され、カテゴリもジャンル別になっているので、ニーズ別・対象別の情報掲載や、そうした視点で一覧の情報にたどりつけるようにするなど、利用する側の視点で使い勝手を良くする仕組みをお願いしたいという話が出ていた。

・同時に、冊子をどう使えば良いか利用者が容易に想起できるように、たとえば「こんな相談がありませんか」「こんな相談が寄せられていますよ」といった、相談の例を丁寧に示すことで、「こんな相談をしていいんだ」というように、相談のイメージが膨らんでいくようなサポートも併せて必要ではないかとも感じた。

・また、どこの窓口を選んでいいかわからないという人に対して、「ワンストップ」という言葉が出ていたが、２つのやり方があると考えられる。地域ケア推進課などが総合相談窓口を担当する方法もあるが、各窓口がこの冊子に自所属が掲載されているという事実を理解しコーディネートできるのであれば、冊子の最も目立つ所に「どの窓口に相談してもあなたのニーズは解決できます」という強いメッセ―ジを打ち出す方法もある。「我々がサポートしますので、電話をかけてください」という、行政の横の連携をＰＲするような形だと素晴らしいだろう。

・また、いくつか意見が出ていたが、双方向性ということが重要だろう。作り手が一方的に掲載内容を考えていくのではなく、区民の声によってアップデートされていく仕組みを保障する必要があるため、冊子のどこでもいいので「こんな情報を掲

載してほしいなど、ご意見をお寄せください」「ご感想やニーズをお寄せください」など、区民の声を積極的に募集する姿勢が必要だと思われる。

・その他、時間外対応の話はなるほど、と感じた。時間外での相談であれば、ＩＣＴ（情報通信技術）の活用が必要となるだろう。時間外でも相談しておくと、後日すみやかに担当者から返事が来るというように、一旦は受け付けるという仕組みが必要なのかなと思う。将来的には、ＩＣＴと絡めたバージョンアップ、コラボレーションが必要になってくるだろう。紙媒体と電子媒体をうまく繋いでいくということが大切で、ＱＲコードもその先駆けとして、全ページに掲載しても良いくらいだと思う。

・また、全戸配布を定期的に行うとともに、ウェブ更新は随時行い、最新情報はウェブから手に入るようにすると良いという意見が出ていたが、それらは是非実現してもらいたいと思う。他に、ＳＥＯ（検索エンジン最適化）の話が出ていたが、たとえば「麻生区福祉」などと入力すると「相談窓口一覧」が出てきて、求める情報が手に入るという形になるためには、これからも努力いただく必要があるだろう。

・紙媒体だと容量に限界があるが、オンラインで情報をアップデートできるようであれば、市民活動の情報などもインターネットのウェブページに掲載しておけば、色々と情報提供ができるだろう。

・また、当事者自身が冊子を活用できることも望ましいが、コーディネートする人やサポートする側の人、身近な人たちが使い勝手が良いように工夫していくことが重要かと思う。

（３）その他

・ヤングケアラ―について

事務局（地域支援課）　・前回の会議で、鈴木委員から「ヤングケアラーについて、どのように把握しているのか、状況を聞きたい」との発言がありましたので報告します。

・ヤングケアラーとは、法令上の定義はありませんが、家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている 18 歳未満の子どものことを言います。

・国の動きとしては、厚生労働省により 2018 年度にはじめて、虐待のおそれのある児童等の支援を行う地域ネットワークである、要保護児童対策地域協議会に対して全国規模での調査が行われました。それ以降、中高生への全国調査や、厚労省と文科省によるプロジェクトチームが発足するなどし、この３月には「多機関・多職種連携によるヤングケアラー支援マニュアル」が作成されています。

・市の対応としましては、この３月に策定された「第２期川崎市子ども・子育て未来応援プラン」のなかで、子どもの貧困対策、児童虐待対策と並び、「困難な課題を抱える子ども・若者への支援の推進」を掲げ、ヤングケアラーも含め、支援に取り組んでいくこととしています。国のマニュアルでは「ヤングケアラーがおかれている状況や認識はさまざまであることから、万人に共通する支援の型を決めることは現実的

ではなく、ヤングケアラーに対応できる機関・部署が既存の支援を組み合わせて、ケースごとにカスタマイズしていくことが求められる」とされています。

・複数の関係機関による連携が重要であり、各機関・部署において、今まで取り組んできた支援ケースの中に、ヤングケアラーがいるかもしれないと捉えることが大切ということになります。そこで麻生区では、子どもに関わる各機関との意識の共有を目指し、今年度の要保護児童対策地域協議会実務者会議の年間テーマを「チャイルドファースト」とし、第１回目は子どもの権利について学びました。

・第２回目は子ども・子育てネットワーク会議との共催とし、ご自身も母親のケアをしていた経歴を持つ当事者の方にご講演いただき、地域の子どもに関わる機関の皆様と、子どもの権利を中心とした支援について考える機会とする予定です。

・今後も、それぞれの窓口で相談を受ける中で、ヤングケアラーかもしれないケースを発見した際には、関係機関が連携し、課題に応じた支援を行ってまいります。

依田委員　・ヤングケアラーについて、この半年に関わる機会があり、気になることがあった。先ほどの話にあった通り原因が多岐に渡るため、本人が非常にナーバスな状態になっていて、簡単に窓口に連れて行くことが困難だったこともあり、なかなか相談先が見つけられなかった。

・このケースは最終的に児童相談所につなぐことができたが、関わる身として、どのように相談の入口をつくっていけるかわからなかったので、取りこぼしがないように相談先をつくってもらいたい。

・学校関係者にも問い合わせをしたが、個人情報の関係もあり用心深い感じで、ヤングケアラーについて幅広く受けてくれる相談窓口ではないように感じた。まずは入り口として、市民が相談できる窓口づくりを急いでほしい。

・今年度の会議スケジュールについて説明

３　閉会

14 時 40 分閉会